

# 金沢市民芸術村 について



## 糸を紡ぐ工場から、 地域の文化を紡ぐ場所へ

約10ヘクタールに及ぶ緑あふれる広大な敷地には、かつて紡績工場がありました。金沢市民芸術村は、吹き抜けの高い天井や赤レンガの壁面など旧大和紡績倉庫群の魅力を活かして改修し、市民が演劇や音楽、美術などの芸術活動を行える施設として、平成8年（1996年）に誕生しました。以来、年間およそ20万人が利用する、地域の文化発信・交流拠点となっています。金沢市民芸術村は、次代を担う若者たちの文化活動の育成を図り、市民の多彩な創作活動を支え、個性豊かな地域の文化芸術を醸成してきた金沢のDNAを紡ぐ場となることを目指しています。

## いつでも、だれでも、自由に -年中無休・24時間・自主管理-

金沢市民芸術村は、年中無休・24時間・低料金で利用できる施設となっています。利用者は、早朝から深夜に及ぶまで、退館時間を気にすることなく、思う存分様々な創作活動に打ち込むことができます。運営面では、「原状復帰」を原則に、利用者自身が責任をもって施設を使用する「自主管理方式」をとっています。これは、自由な表現活動が保証される代わりに利用者自身も責任を持つ、金沢市民芸術村独自の運営方法と言えます。

## 「市民が主役」となるために -市民ディレクター制-

金沢市民芸術村ではさらに、公立文化施設の中で全国初の「市民ディレクター制度」を導入しています。「ドラマ」「ミュージック」「アート」の3つの工房には、演劇・音楽・美術の専門家の中から、バランス感覚に優れ、ボランティア精神を有する人材を公募で各2名選出し、工房運営を任せています。利用者の代表でもあるディレクターたちは、数年間の任期中、施設利用を活性化し、市民が芸術への関心を深め、身近に参加できる主催事業（アクションプラン）の企画・立案などに取り組み、「市民が主役」となる施設運営を行っています。

## アクションプラン事業

アクションプラン事業とは、ドラマ・ミュージック・アートの3工房の市民ディレクターが企画・立案する金沢市民芸術村の主催事業です。初心者でも気軽に参加できる体験型ワークショップや、子供から大人までを対象とした多彩なイベントを展開しています。市民が気軽に芸術文化に触れる機会の提供、次代を担う若者への支援事業、市民への啓発事業を通して、金沢市の新しい芸術文化創造の育成に寄与することを目的に実施しています。